

スマート農業 40道府県で実験

① 自動運転の農機やロボットなどの最新技術を活用した農業をなんといいですか。

名前【 】

農業

市

② 兵庫県内では何市で実証実験に取り組んでいますか。

③ 山形県尾花沢市や愛媛県八幡浜市の実証実験で採用しているのはどんな機材ですか。

自動運転の農機 ■ 搾乳ロボット

自動運転の農機やロボットなどの最新技術を活用した「スマート農業」の取り組みが全国で本格化している。農家の高齢化や担い手の減少が続く中、作業を効率化して所得向上や地域活性化を後押しする狙い。農林水産省は今春から全国40道府県の69地区で実証実験をスタートし、普及に向けて本腰を入れ始めた。

農水省、普及へ本腰

実証実験では、農水省が機材の費用を補助して導入を支援。2年間試してもらい、どれだけ作業時間や人手を効率化できたかデータを集める。兵庫では養父市で取り組んでいる。大規模水田地帯の北海道岩見沢市では、自動運転のトラクターやコンバインで

コメの生産を省力化した。り、水位センサーを使って自動で水の管理を行ったりする。ドローンや衛星の画像で生育状況もチェックできる。宮城県東松島市や茨城県下妻市、福井県坂井市、岐阜県瑞穂市ではこうした技術を低コストの輸出の生産につなげたい考えだ。

傾斜地の多い中山間地や重い収穫物を運ぶ必要がある産地では、高齢者や女性も作業しやすいよう腰や腕の力を補助するアシストスーツを採用。スイカを生産する山形県尾花沢市や、温州ミカン産地の愛媛県八幡浜市などで実証実験を行う。

酪農では、栃木県大田原市や鹿児島県霧島市で牛の自動餌やり機や搾乳ロボットを活用。労働時間が不規則で長い酪農家の負担を軽減する。農業の担い手はこの10年で約65万人減り、今年2月時点で約140万人。このうち約4割を70歳以上が占める。農水省は「スマート農業の運用コストや経営への影響も分析し、導入を希望する農家の判断材料として提供したい」としている。

スマート農業の主な取り組み	
自動運転農機でコメの生産を省力化	北海道岩見沢市 宮城県東松島市 茨城県下妻市
水の自動管理、ドローンなどで生育状況チェック	福井県坂井市 岐阜県瑞穂市 など
アシストスーツで収穫物の運搬などを補助	山形県尾花沢市 愛媛県八幡浜市 など
気象データと連動させて精密に栽培管理	三重県御浜町 など
自動餌やり機や搾乳ロボで酪農の負担軽減	栃木県大田原市 鹿児島県霧島市 など



作物の生育状況確認に活用するドローン(福井県提供)

④ 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましよう。